

廃プラ焼却炉2機種投入

DAITO ラインアップ拡充

焼却炉メーカーのDAITO(本社瀬戸市原山町145、井上滋樹社長、電話0561・21・3111)は、ビニールや発泡スチロールなどの廃棄プラスチックに対応した焼却炉と、紙・木くず用焼却炉の計3機種を発売した。廃プラ用は、長時間安定して燃焼できる水冷式と、燃焼効率の高い耐火材式の2機種。プラスチックゴミの処理ニーズが高まっていることから、ラインアップを拡充して需要拡大を狙う。初年度各20台の販売をめざす。

(瀬戸)

紙・木くず用も 各20台販売へ

発売した廃プラ対応焼却炉は、水冷式の「ISRモデル」と耐火材式の「SPRモデル」。

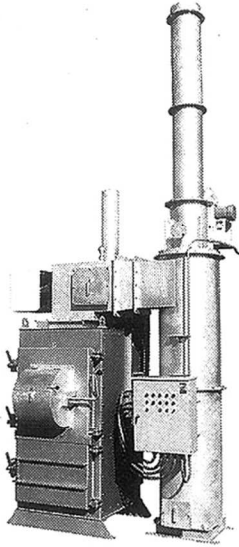
プラスチック類は長時間燃焼させると炉内の温度が上昇し、炉を傷めることがある。ISRは均一に熱交換ができる水冷式で、廃プラを長時間安定して燃焼させることができる。両機種とも火格子(ロストル)を装備することで高

い燃焼効率を実現。ゴミの投入口も大型化し、かさばる廃プラを投入しやすくした。

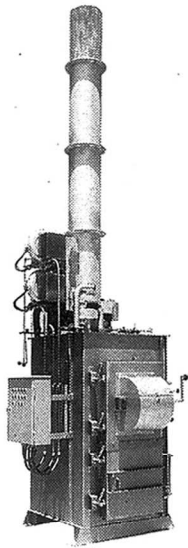
焼却能力(廃プラ類の発熱量で算出)は、両機種とも毎時12キログラム。価格はISRが568万円(税別)、SPRが348万円(同)。同時発売した紙・木くず用の「AGZRモデル」は、同社のロングセラー商品「AGZIIモデル」の後継機種で、燃焼効率や操作性、安全性を高めた。また、木

くずなどの大型ゴミに対応できるように投入口を大きくとった。焼却能力(紙・木くずの発熱量で算出)は毎時49キログラム。価格は328万円(同)

3機種とも国が定める構造基準に適合しており、一部を除き行政への届け出は不要という。行政から指導があった場合は、同社が責任を負う「構造基準適合保証」付き。同社では「安心して使用してほしい」とアピールしている。



水冷式廃プラ対応焼却炉ISRモデル



耐火材式のSPRモデル